

キッズゆうあい作品展を開催

～みんなの作品がごうぎんカラコロ美術館に～

夏休みから制作をはじめたキッズゆうあいの子どもたちのさまざまな作品。10月3日、4日の2日間にかけて、ごうぎんカラコロ美術館にて、その作品展を開催しました。昨年までは、キッズゆうあい夏祭りにあわせて公民館の会場で作品展をしてきましたが、今回の会場は美術館ということで、みんなの作品がとっても輝いて見えました。来場された方々からも「とっても温かい作品ですね」「見ていて元気ができました」など、コメントもたくさんいただきました。たくさんの人に見ていただくことができ、子どもたちも、とても喜んでいました。



楽しい楽団、リトルマルティグラでパレード

10月4日、キッズゆうあい作品展の開催日と重なって、リトルマルティグラという音楽イベントがあり、「楽しい楽団」も参加。殿町から松江大橋にかけて、いろいろな楽器を奏でながら楽しくパレードをしました。この日は絶好の天気でもっとも気持ちのいい汗をかきました。



だい
第1キッズ



キッズゆうあい作品展、制作中の様子です。第1キッズではトトロを題材に紙粘土人形を作りました。

子どもたちによる、即興の人形劇です。

だい
第2キッズ



牛乳ピンを使って、理科の実験をしています。

キッズゆうあい作品展にむけて染めもの制作。

こちらキッズ作品展のために、金魚鉢とビー玉の作品づくり

だい
第3キッズ



御津の海に行って、みんなで大はしゃぎ。

農園でとれた芋で、芋モチを作りました。

キッズ作品展に向けて色ぬり作業のラストスパートです。

外部研修の報告

自閉症カンファレンス NIPPON2015 ～TEACCH モデルに学ぶ実習研修会～ に参加して

第3キッズ ○○○○

今回研修に参加して感じたことは、障がいを持っている子を支援していく中で、その子のことをどれだけ深く理解できているかということがとても重要だということです。1人ひとり違う細かな情報をどれだけ支援する側が持っているかによってその子が生活しやすく生きやすい方向へ進む支援になるのか、逆に困難が増えたり生活しにくかったりと生きにくさを抱えたまま進む支援になってしまうのが大きく変わってくると思います。今後はそのような重要な位置に自分がいることを頭において、子どもたちにとってより過ごしやすくなる為にはと考えるながら仕事に取り組みたいですし、もっと一人ひとりを理解してあげることが出来るようないろいろな研修に参加して自分自身の知識を増やし、日々勉強していきたいと思えます。

○○さんの席上揮毫「共に生きる」とお母さんの講演会に参加して

第2キッズ ○○○○

9月5日、ダウン症の書家として活躍中の○○さんとお母さんが来松。○○さんは力強い席上揮毫を披露。「心をこめて書きました。」と挨拶され、30歳になったので一人暮らしをすることを宣言されました。母○○さんの「天使がこの世に降り立てば」の講演は○○さんへの愛情に満ちたものでした。○○さんには人知を超えた力があり不思議なことが次々起こること。染色体が1本多いのは「愛」。魂が純度を保っており、競争心がなく人に優しい。相手に喜んでもらうために頑張り、それが次のステップに繋がっている。常に自分が死んだ後のことを考えながら育てたが、何度も困難に遭遇。「闇の中に光がある。闇が深ければ深いほど待っている光は大きい。今はとても幸せ」と語られました。

○○氏 「自閉症の僕が跳びはねる理由」講演会へ行って

第1キッズ ○○○○

○○さんは重度の自閉症です。重度の自閉症といわれていますが、作家というお仕事をされています。会話も人とのコミュニケーションもとれません。しかし、パソコンのキーボードを打つことで、彼がどういう風におもっているのか知ることができます。彼のこたえは想像以上でした。

「自閉症の僕が跳びはねる理由」という本をよんだところがありますが、その本の中になぜ跳びはねるのかという本当の理由がかかれています。

自分のものさしで彼らを縛ってはいけません。見てはいけません。決めつけてはいけません。彼の内面の表現力と思いに驚かされました。恥ずかしさと申し訳なさでいっぱいになりました。

講演の最中もハンカチを噛んで叫んだり、跳びはねたりすることもありましたが、そうやって自分の気持ちを落ち着かせ、また文章を一生懸命読む姿に感動しました。

そして、わが子の可能性をあきらめずに寄り添う母の姿が印象的でした。

言葉がしゃべれないから知的障がいがあると判断してはいけません。彼らの内面も私たちと同じようにたくさんの感情があります。彼らの世界を感情を汚さぬよう、心の中の声が届くフリーな心で可能性を信じたいです。普通がどういうことなのか、普通は私たちの普通であり彼らの普通ではありません。しかし、生きている世界は同じで、どこかでつながり互いに幸せを感じられるようになりたいです。講演会をきいて、愛しさでいっぱいになりました。

今までの自分の至らなさに反省し、きもちを入れ替えて人と関わりたいと思えます。ありがとうございました。皆さんもぜひ○○氏の本を読んでみてください。

合同の職員研修を開催

キッズゆうあいでは、ほぼ2ヶ月に1回の割合で第1キッズから第3キッズまで、児童支援スタッフ全員を対象とした合同研修を実施しています。9月の研修では、松江児童相談所の方をお招きした虐待をテーマにした研修でした。最近では高齢者の施設で残念な出来事がありました。この研修での学びを通じて職員みな気持ちを引き締めることになりました。



こんげつ しょうかい 今月のスタッフ紹介

お知らせ

あき えんぞく ひ ほくもやういようこうえん ●秋のバス遠足は備北丘陵公園

10月31日(土)に広島県の備北丘陵公園へ、秋のバス遠足を予定しています。とっても広大で、芝の広場、様々な遊具や花壇があり、子どもたちみんな大喜びしそうな公園です。詳しい予定については、すでにお配りしました案内チラシをご覧の上、参加不参加をお知らせください。



●バルーンアートショーとランチバイキング in ニューアーバンホテル

12月に昨年まで3年つづけて開催していましたが「よしととひうたの紙芝居&ランチバイキング」ですが、今年はバルーンアートで子どもたちに大人気の「さと原人」さんをお招きすることになりました。ショーのあとは、たのしい楽団のミニ演奏も予定、そして楽しいランチバイキングです。開催日時は12月13日(日)10時~13時、会場はこれまでと同じニューアーバンホテルです。

発行:NPO 法人プロジェクトゆうあい/キッズスペースゆうあい

★キッズゆうあい通信のバックナンバーはHPからご覧になれます <http://pjui.com/day/>

第1キッズ:松江市北堀町 35-14 電話 0852-26-6345 (PHS)070-5523-2220

第2キッズ:松江市北堀町 59-2 電話 0852-24-9979 (PHS)070-5671-3951

第3キッズ:松江市西川津町 1408-7 電話 0852-24-0911 (PHS)070-5055-0852

■連絡可能時間帯:
月~金 11:00~18:00
(第1のみ~19:00)
土(第2除く)8:30~18:00